

わが国のマネーフローにおける 信託の機能と役割

三井住友信託銀行
調査部
金木利公

1. 本講座の目的

「カネは天下の回りもの」と言うが・・・、

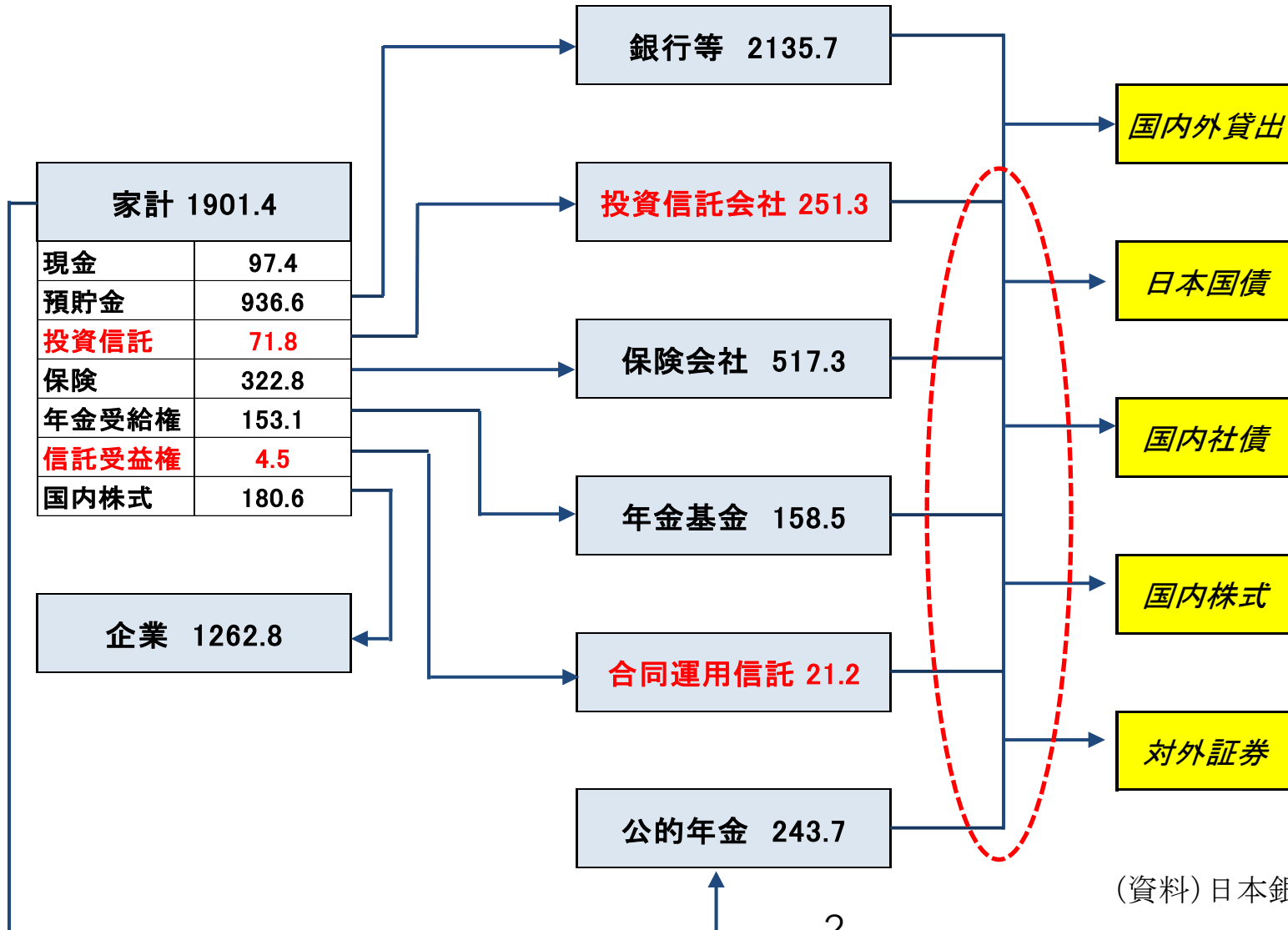
①信託の仕組みを使ったおカネとは？

②どこを駆け巡り、どのくらいある？

③信託の機能と役割とは？
—について解説します。

2. 家計のマネーフローの概要：「信託」はどこに？

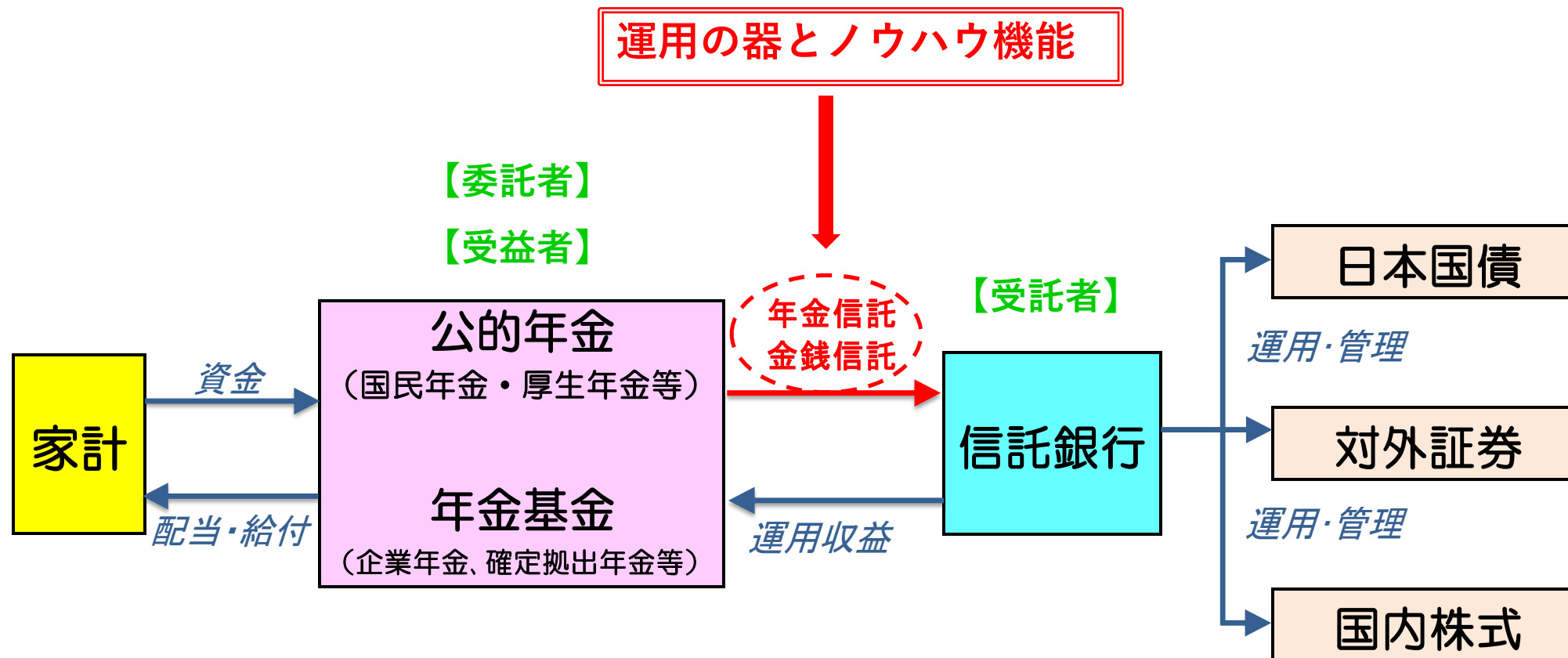
図1 家計マネーの流れと各部門の金融資産残高（2020年9月末、兆円）



(資料) 日本銀行「資金循環統計」

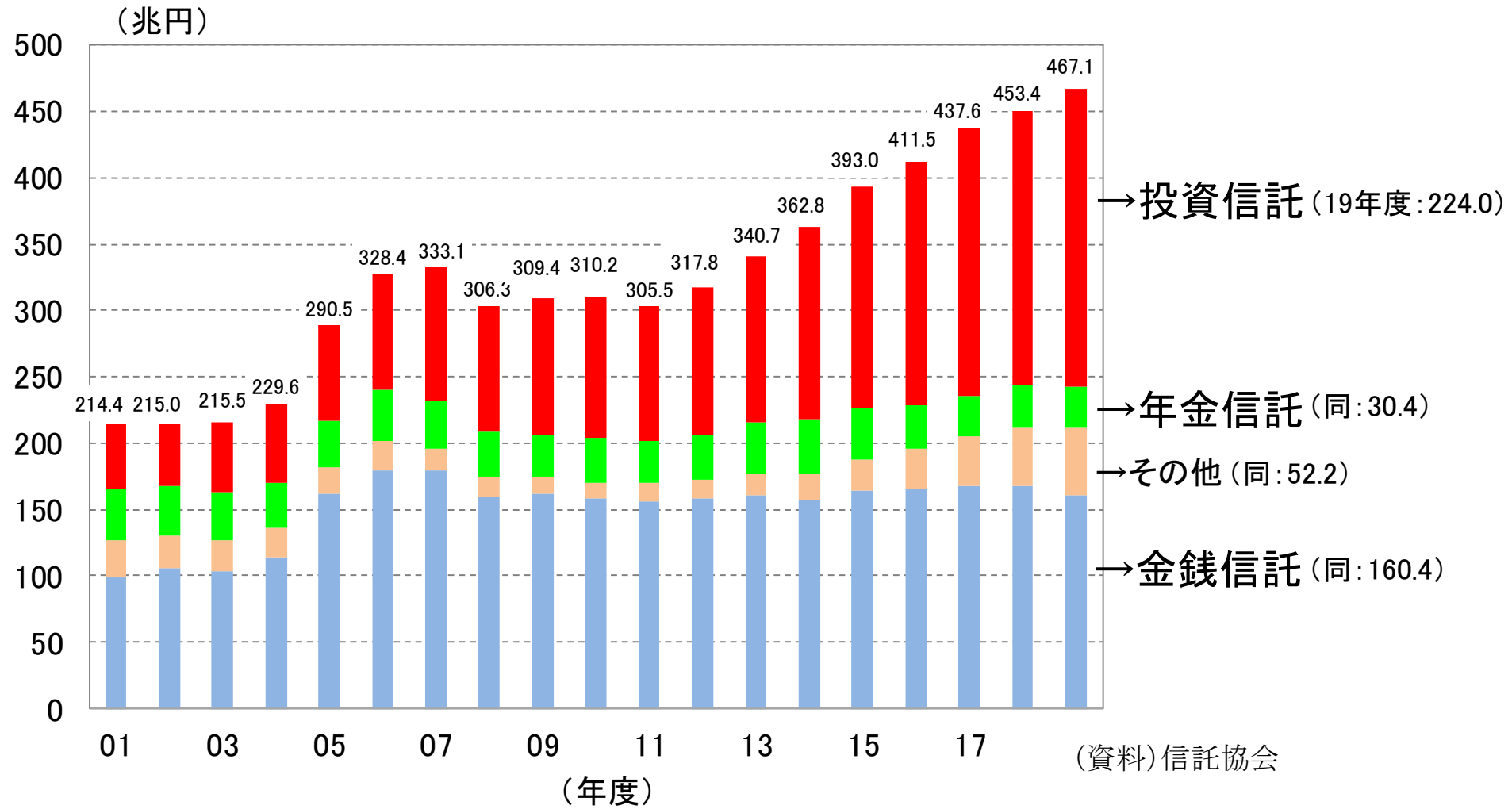
3. 信託銀行の「運用の器とノウハウ」機能（1）

図2 信託を介した資金の流れ



3. 信託銀行の「運用の器とノウハウ」機能（2）

図3 「運用の器とノウハウ機能」信託商品（金銭の信託）の推移



4. 信託の基本的機能：（1）財産管理機能

財産管理の安定性・安全性が高まる。

- 資金の不適切な流用や不祥事を防止できる。
- 複雑な事務から解放される。



受託者（信託銀行）に課される厳格な義務

- **善管注意義務**：「善良なる管理者」の注意を持つべし。
- **忠実義務**：受益者の利益のために行動すべし。
- **分別管理義務**：信託財産と受託者の財産は分別すべし。

4. 信託の基本的機能（2）：倒産隔離機能

有事における財産の安全性が高まる

- ・委託者（年金基金など）や受託者（信託銀行）が倒産しても、信託された資金は保全される

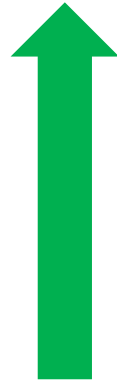


- 信託された資金の名義は委託者から受託者になる。
→委託者の倒産の影響を受けない。
- 信託された資金は受託者自身の財産にはならない。
→受託者の倒産の影響を受けない。
- よって、信託された資金は法的に独立性が備わる。

4. 信託の基本的機能（3）：権利転換機能

おカネがより効率的に活用される。

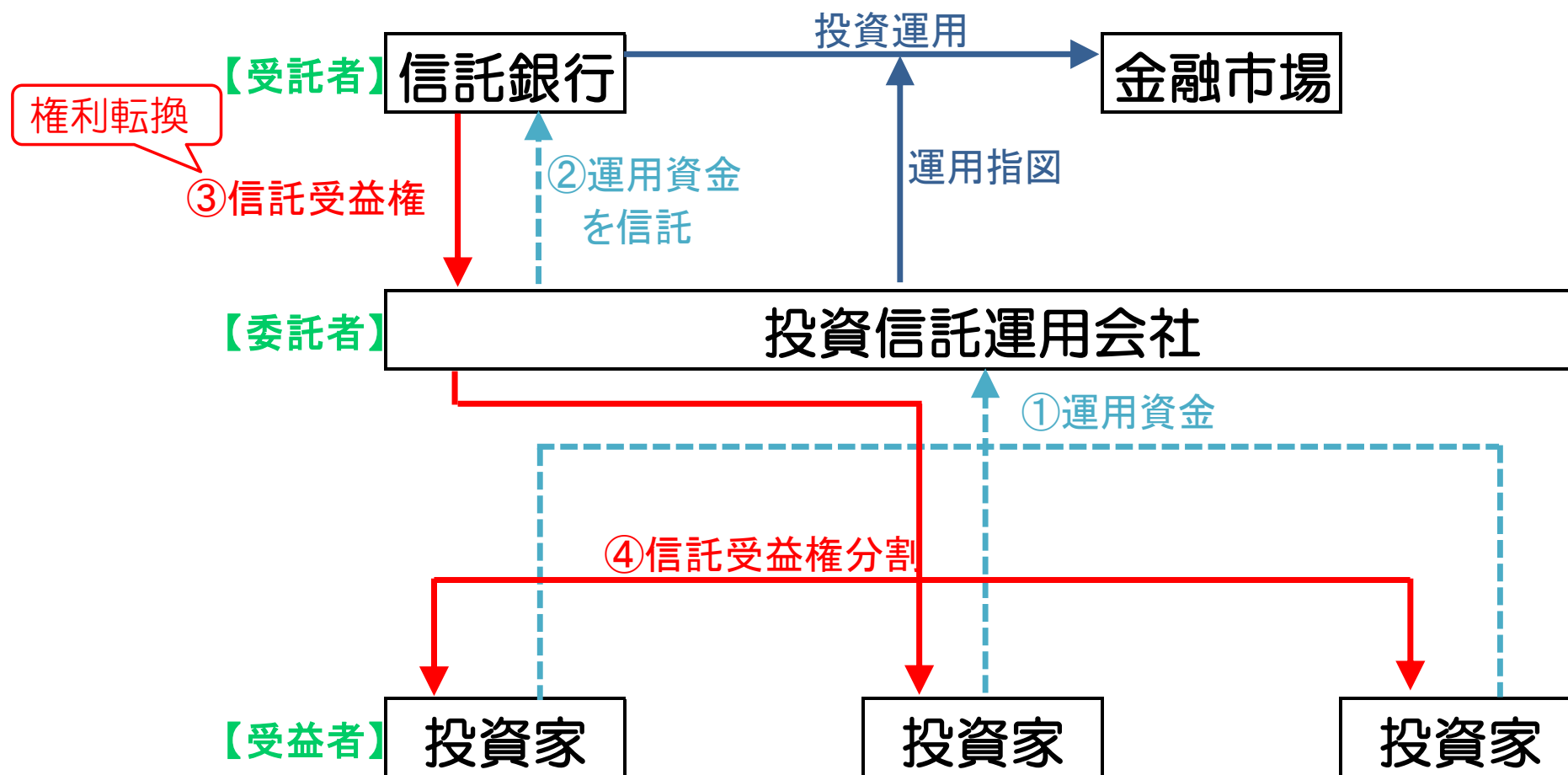
- ・おカネの運用や現金化が容易になり、おカネが流通しやすくなる。



- 運用資金を信託すると、権利形態が所有権から**信託受益権**（信託した財産から生じる利益を受け取る権利）に変わる。
- 信託受益権は有価証券とみなされるので、**売買も分割も容易になる。**

4. 信託の基本的機能（3）：権利転換機能（続）

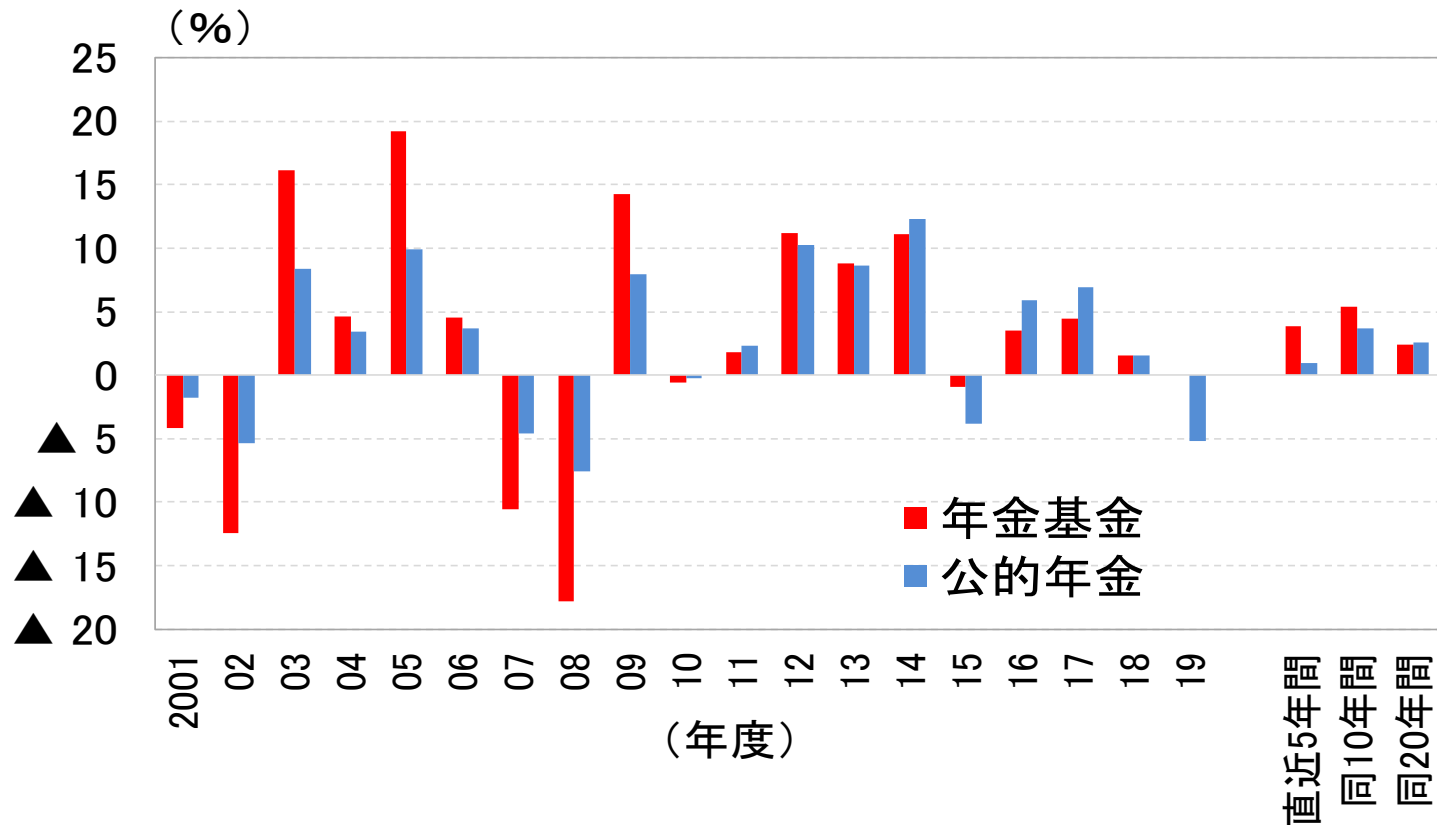
図4 投資信託の仕組みと権利転換機能



4. 信託の基本的機能（4）：運用機能

信託銀行グループの高度な運用スキルが活用でき、高い運用利回りが期待できる。

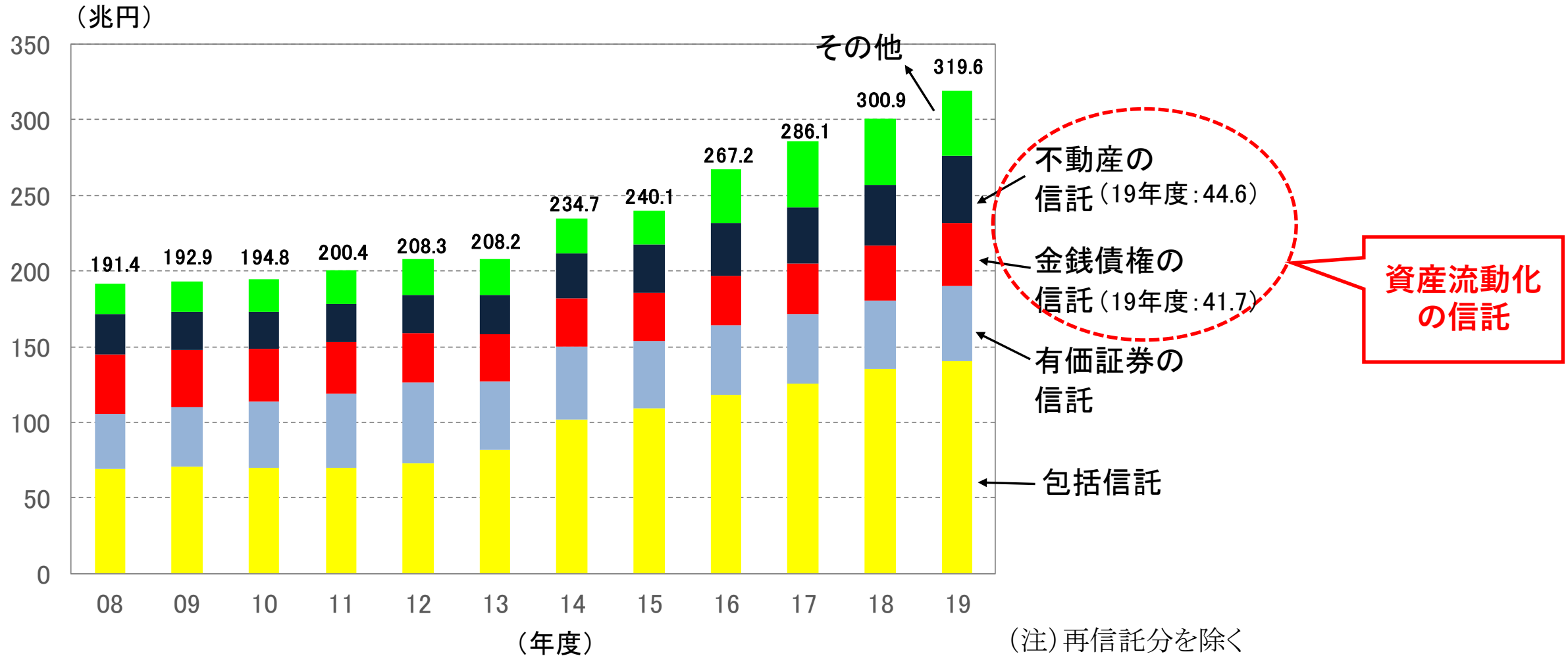
図5 公的年金と年金基金の運用資産利回りの推移



(資料)年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)、企業年金連合会

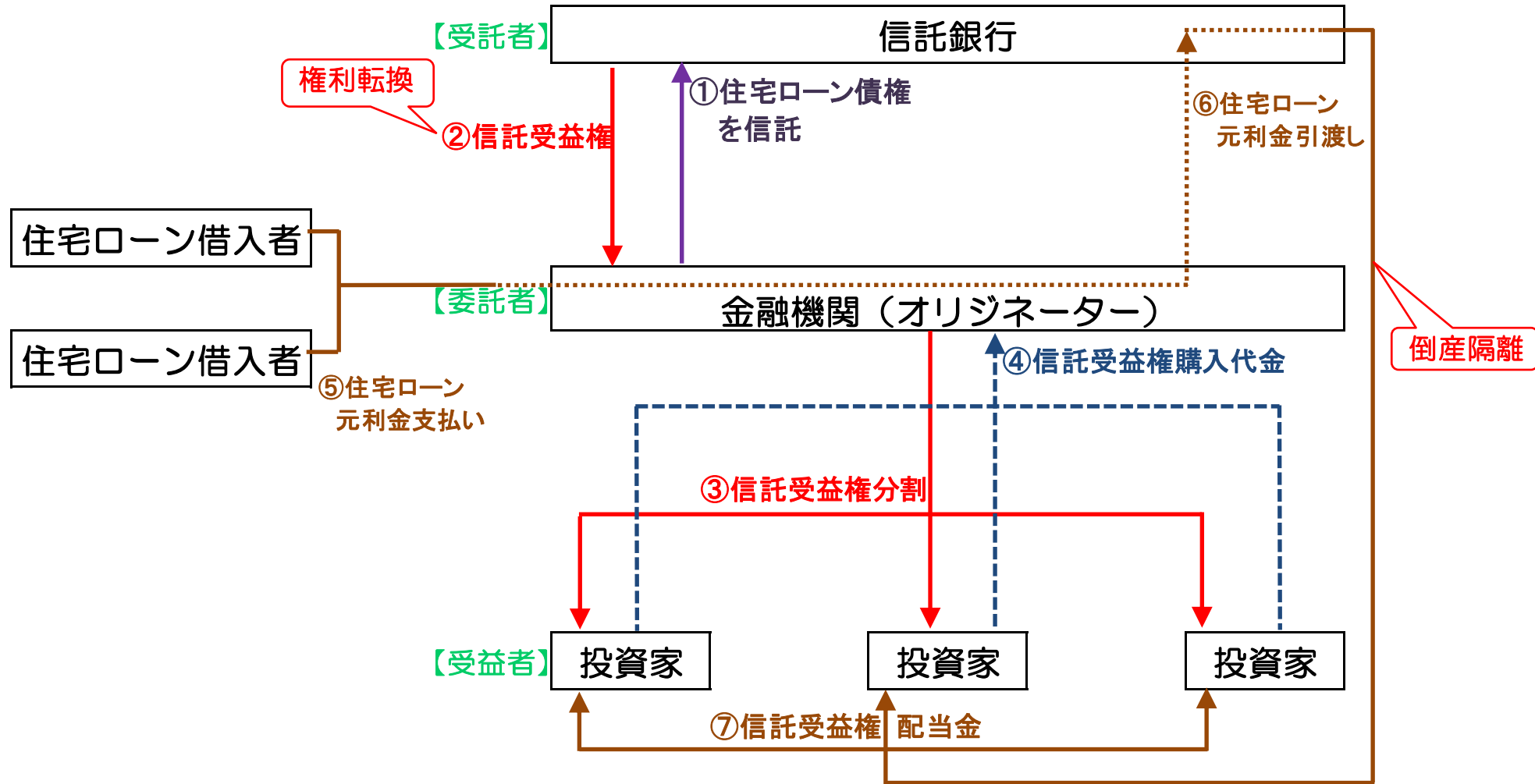
5. 信託の展開可能性（1）：おカネ以外の信託

図6 「金銭以外の信託」の受託残高の推移



5. 信託の展開可能性（2）：資産流動化の信託

図7 信託を活用した住宅ローン債権の流動化



6. おわりに&まとめ

●信託は、

- ① 基本的機能を組み合わせた信託商品を通じて、
- ② 家計や投資家の運用資金を金融市場につなげる
インフラ・黒子の役割を果たし、
- ③ 新たな金融仲介・資産運用機能も生み出し、
- ④ 経済成長や課題の解決に資する。

●様々なニーズや課題に対応できる柔軟性・応用性の高さ

→信託の真髄

●近年も多様化するニーズに対応して様々な信託商品が開発

→教育資金贈与信託、後見制度支援信託、おひとりさま信託・・・

他の講座でも、信託が活躍する様々な場面が紹介されています。是非、ご覧下さい。

参考資料

- 日本銀行「資金循環統計」

<https://www.boj.or.jp/statistics/si/index.htm/>

- 信託協会「統計データ」

<https://www.shintaku-kyokai.or.jp/data/>

- 「わが国のマネーフローにおける信託の機能と役割（文章編）」

